

8月8日、市教組青年部主催による「ヒロシマ平和学習フィールドワーク」(以下、フィールドワークはFWと表記します)が行われました。午前、爆心地と西向寺、袋町小学校平和資料館、午後は、本川小学校平和資料館、広島平和記念資料館を見学した後、個々で平和記念公園内を巡りました。

参加者からは、「実際に現地を見学できて良かった。」という声が多く聞かれました。

以下に、参加者からの感想を掲載します。

なお、紙面の都合上、若干、編集させていただいていることをご了承ください。

今回のFWでは、平和記念公園や原爆資料館だけでなく、町の中にも原爆の跡があることやその時の話が聞けました。原爆資料館では伝承者さんのお話を聞くことができました。被曝二世の方で、「お姉さんが結婚するまで、お母さんが広島市内に住んでいたことを話せなかった」という話が一番心に残りました。自分自身が平和について考え続けることと、これから先の未来を考えるために、今まで起きたことについて知ること、考えることの重要性を伝え続けていきたいです。(T)



知識としては蓄えていても、実際に見て、触れて、感じるFWは本当に多くの学びがありました。今回のFWが、自分のこととして振り返るよい機会となりました。ありがとうございました。(N)

私は、広島に行くのは今回で2回目です。教育者の立場で行くことができたので、学びの連続で充実したFWでした。特に驚いたことは、袋町小学校平和資料館の入り口にある写真が、被曝後すぐに撮影されたものだと思っていましたが、まさか2週間後の台風での被害があった後の写真だということは、今回のFWに参加しなければ知らないことでした。子どもたちもよく目にする写真ですので、教えたいと思いました。他にも今日学んだことを、これからの教育活動に活かします。(T)

今回のFWで、初めて広島を訪れました。私が小中学生だった頃、8月6日の平和登校日が毎年ありましたが、原爆ドームや平和記念資料館というものがあることしか、教えてもらえていないと記憶しています。今回、爆心地の建物、そこから近い本川小学校と袋町小学校平和資料館を見学させていただけたことで、原爆投下によってもたらされた多くの犠牲者、町を知ることができました。私は教科書で学んだ広島のことしか知らずにいました。そして、それが広島ですべてではないということを考えさせられ、学校現場で平和教育をするにあたり、今回学んだこととともに、広島についてもっと調べる必要があると思いました。(O)

日帰り研修でしたが、とても充実した研修でした。近年は、私が子どもの頃と比べて、8月の原爆や戦争についての特番などがテレビでもあまり放映されなくなったと感じています。被爆者や戦争体験者は年々少なくなっていき、今の小中学生の世代でも、直接、戦争体験を聞いたことがない子どもはたくさんいます。被爆者や戦争体験者がいなくなる時代に、どのように戦争や原爆について語り継いでいくかということが、これからの学校教育の課題となると思います。そのような中で大切なことは、やはり現地に行って学ぶことだと、今回の研修を通してあらためて感じました。(Y)

FWの開催、本当にありがとうございました。ヒロシマ・ナガサキ・オキナワについて、知らない人が多すぎる日本。実際に現地を見て、聞いて、触れることで、あらためて感じることを、考えさせられることは、とても多いので、教職員として子どもたちに「平和」を伝えていくのであれば、現地で直接学び、「正しく」子どもたちに伝えてほしいと思いました。今回は、自分たちだけではなかなか回ることがないような所も見学でき、とても学びが深まりました。(H)



西向寺
爆心地にある浄土真宗の寺院。原爆により一家で焼け死んだ門信徒が続出して、千基あった墓石のうち、およそ七百基が無縁仏となってしまったそうです。



広島での平和学習について、自分が小学生の頃の記憶しかなく、その時も原爆ドームや平和記念資料館の見学がメインでした。資料館もリニューアルされているし、袋町小学校や本川小学校の平和資料館も初めて行く場所で様々な展示に触れ、自分の知っていることが少ないことを実感しました。私たちは8月6日に何があったのか、それがどれだけ悲惨であったかを知る機会はありませんでしたが、放射線による被害でその後どうなったのか、どのように復興してきたのかについて深く考えたことはなかったと気付かされました。語り部さんの減少や伝承者不足等により、原爆がいつの日か投下されたか知らない子がいることなど、自分が教育に携わる人間として、この経験を活かしていきたいです。お忙しい中、FWを企画・実行していただきありがとうございました。(K)

広島へのFWありがとうございました。広島へは2回ほど訪れたことがありましたが、平和記念公園しか行ったことがありませんでした。今回、その他にも原爆被害にまつわるような所へ行き、見学することができて、今まで以上に衝撃や考えさせられることがありました。特に本川小学校平和資料館への見学では、当時のメッセージが壁に残っていることや、生き残った方の話がとても印象的でした。平和記念資料館の写真は何度見ても、言葉を失うほどです。今、私たちにできることは、このように実際に見て学び、感じ、平和の尊さについて考えることなのかなと感じました。また機会がありましたら、参加したいと思いました。(T)



【裏面に続く】

今回のヒロシマ平和FWに参加させていただき、強く感じたことは「学び続けることが大切である」ということです。今まで子どもたちと本や資料集、映像資料などを使って学習をしたり、修学旅行の引率でヒロシマへ行き、実際に見学をしてきました。その時も戦争の悲惨さを感じたことを覚えています。そして数年ぶりにヒロシマへ行き、あらためて感じたことは自分自身まだまだ知らないことがたくさんあるということ、何度行っても現地ではか実感できない新しい学びがあるということです。また、袋町小学校の見学をした際、資料館の方から聞いた話の中でも、新しい学びがありました。終戦直後に台風があり、大きな被害がでたということは資料を読んで知っていました。しかし大きな被害がどれほどなのか、原爆の被害を受けた方がさらに被害に遭うということがどれほど悲惨だったのかということは、直接聞いたからこそ、その恐怖を感じることができました。他にも本川小学校平和資料館で発見された黒板や、壁に書かれたメッセージについては、書いた方の思いだけでなく、メッセージが発見されたときの遺族の方の思いについても知ることができました。今回参加して、戦争や原爆について私たち自身が現地へ行き学ぶことや、知識を広め新たな学びを求めていく姿勢を持ち続けていきたいと思いました。ありがとうございました。(K)

今回のFWで良かったことは、当時の空気感を感じながら各所を回ることができたことです。今回のFWは、組合員の「学びたい、知りたい」ということが実現され、組合の大切さを、より実感できるようになりました。(M)

初めて広島FWに参加しました。FWで各地を巡り、当時の様子や人々の思いに触れ、あらためて戦争の恐ろしさや悲しさを感じました。そして再び核兵器が世界で使用されないことを強く願いました。学校現場で毎年、反戦平和教育は行いますが、広島の現地を訪れずして語れることの少なさを痛感しました。今回のFWで学んだこと、感じたことを後世へ残していくために、まずは自分が担当する子どもたちへ伝えていきたいと思います。(S)



袋町小学校平和資料館

爆心地から460mの場所にあり、木造校舎は全て倒壊・全焼しましたが、鉄筋コンクリート造校舎であった西校舎だけが外郭のみ原形をとどめました。被曝直後から救護所として利用され、利用された西校舎の壁面には、被爆者の消息などを知らせる「伝言」が数多く記されていました。

実際に現地に行って見て感じる事ができ、とても良かったと思います。今回、平和資料館で被曝伝承者の方のお話をうかがうことができ、貴重な機会となりました。戦争を「過去のもの」「遠いところのもの」「関係のないもの」にしないために、平和を築く一員として何ができるのかを考えていくことが、不可欠だとあらためて実感しました。誰もが「戦争はしてはいけない、こわい」ということを知っています。でも、それだけでなく、「平和な世界は一人ひとりの心、行動がつくり出すもの」「なぜ戦争をしてはいけないのか」を考えられる授業実践を続けていきたいです。今回、そのための知識（歴史認識）を増やせたとともに、自分自身の人権感覚を磨き続けていきたいと思うことができました。(K)



平和学習でさまざまなことを伝える機会はありませんでしたが、10年前に修学旅行で訪れて以来のヒロシマでした。袋町小学校平和資料館の古い壁に残っている家族への置き書きを目の前にして「どのような気持ちでこれを書いたのか」、本川小学校旧校舎に刻まれた傷や黒焦げた跡を目の前にして「一人だけ校舎内にいた子どもは、どんな気持ちで外にでたのか」を考えると、心が強く揺さぶられました。新しくなった平和記念資料館のモノクロのパノラマ写真の前に立つと、まるで自分が1945年のこの場所に立っている気にさえなりましたが、その写真には肌の色も血の色もありません。熱線による火事や、炎天下の温度もありません。痛みも匂いもありません。そのような感覚を想像することが、とても大切だと思うのです。また、かつての資料館と違うのは、遺品をもとに一人ひとりの話が語られているところだと感じました。14万人という数や歴史的知識のみで捉えるのではなく、生死を問わず一人ひとりの人間がどのように苦しんだかを実直に見つめていくことこそが、戦争の悲惨さを理解することにつながっていくのだらうと思いました。平和記念資料館の学習ハンドブックには「ヒロシマを知ることは未来を考えること」とあります。このような時勢だからこそ、なおさら子どもたちと考える機会につなげていきた ↑

道中の案内は田辺副委員長



と思いますし、このような貴重な機会をあたえていただいた市教組にあらためて感謝します。ありがとうございました。(M)

実際に広島を1945年8月6日に思いを馳せながらまわると、本や新聞を読むだけでは感じる事ができない「重い」感覚を感じながら学ぶことができた。平和記念資料館は15時を過ぎても、入場するために長蛇の列ができており、とても驚いた。来館者の多くが外国からの観光客で、家族連れが非常に多く感じた。昨今の世界情勢の中、「核兵器」の使用が懸念され、多くの人々が関心を寄せているのがとてもよく分かったと同時に、唯一の被爆国である日本人々が、今以上に核兵器の招いた惨劇を学び、それに至るまでの歴史的背景にも関心を持つことが重要だと思った。そのために、私たち教職員が教育の現場で反戦平和の学びをすすめていくとともに、周りの教員にも反戦平和学習をする意味、理由を伝えていこうと強く感じた。(S)

何度も広島へ行って同じ所を訪れていますが、その場所へ行くたびに想像もできない当時の人々の悲惨な暮らしが、現実が、自分に見せつけられるよう考えさせられます。平和記念資料館で、語り部の方や伝承者の方の話が聞ける機会があれば良かったなと思いました。(T)



本川小学校平和資料館
「はだしのゲン」に登場する学校です。

韓国人原爆犠牲者慰霊碑

